

マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」#14 原作シナリオ

山崎浩治

マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」 # 1 4 原作シナリオ

1 「居酒屋まわりみち」・店内

割烹着姿のオネエ所長とぬいぐるみを抱えた菜摘がタコちゃんウインナー付きのカレーライスを食べている(二人の隣席にトオルもいる)。

菜摘「なっちな、海、見たことないんだ」

オネエ所長「それじゃ、明日はお盆休みだから一緒に海に行こうか」

そんな会話を近くの席で目を細めて聞いているサトシ。

サトシ「いいなあ、海かあ」

美鈴「サトシ君、あたしたちも海に行こうよ！」

サトシ「(カウンター内の末吉に)マスターも一緒に行こ！」

末吉「(カウンター内のアヤカに)アヤカちゃんも一緒に行くかい？」

アヤカ「はいっ」

トオル「(思わず立ち上がって)オレも行きます！」

2 海に続く道を走るライトバン(内灘海岸近く)

運転席に末吉、助手席にアヤカ。2列目にトオル、菜摘、リゾート風の女装をしたオネエ所長、3列目に美鈴とサトシが座っている。

美鈴「サトシ君と二人だけのデートが、どうしてこんな団体になるのよ！」

3 海水浴場

浮き輪をつけた水着姿の菜摘が海に向かって駆け出していく。

パラソル下にいるゼブラのビキニ姿のオネエ所長がいそいそとオイルを塗り出す。

その傍らに美鈴、サトシ、末吉がいる。

美鈴「(サトシに)サトシ君、オイル塗ってあげる……」

サトシ「(末吉に)マスター、オイル塗ってあげるよ」

美鈴→サトシ→末吉のベクトルで、背中にオイルを塗り始める。

美鈴「(面白くなく)リバーズ！」

末吉→サトシ→美鈴のベクトルで、背中にオイルを塗り始める。

美鈴・サトシ「(恍惚として)シアワセ！」

そんな彼らに囲まれて、他人行儀なアヤカとトオル(ともに水着姿)。

アヤカのM「海に来たのは中学の時以来。しかも男の人とは初めて！ ちょっと水着、派手だったかな」

アヤカ「(隣のトオルを意識して赤くなる)……」

トオル「(そんなアヤカに)……？」

× ×

スイカ割りをしている一同。

目隠しした菜摘が棒を振り上げて、スイカに向かっていく。

応援している大人たち。

サトシ・美鈴「(ひときわ大声で)ガンバレ、なっち！」

× ×

海に沈む夕陽。アヤカと菜摘、トオル、末吉がオネエ所長を砂に埋め、`ボンキュンボン、な砂の彫刻を作っている。

サトシ「(嬉しそうに菜摘を見て)……」

美鈴「サトシ君って子ども、好きなのね」

サトシ「美鈴さんこそ、なっちを見る目がお母さんになってたよ」

美鈴「あたしの夢はママになること。お店のママじゃないよ。お母さん……」

サトシ「(美鈴を凝視して)……ちょっと意外」

美鈴「(照れて)えへへ」

#4 「まわりみち」(夜)

日に焼けた一同がビールで乾杯している(カウンター内にはアヤカと末吉)。

美鈴「あかりちゃんも一緒に海に来れば良かったのに」

サトシ「妹は水着持ってないから……さてと僕は帰るよ」

#5 片町スクランブル

美鈴、サトシの腕を引っ張っている。

美鈴「ねえ、これからサトシ君の部屋へ行こうよ！」

サトシ「ダメ」

美鈴「どうして、いつもいつもダメって言うの？ あかりちゃんと3人で飲もうよ」

サトシ「ダ～メ！」

美鈴「どうしてもダメっていうなら……ここでキスして(と目を閉じる)」

サトシ「(躊躇して)……(美鈴にキス)」

#6 とあるマンション前を歩いてくるサトシ

#7 サトシ(あかり)のマンション(2LDK)

帰宅したサトシがリビングのソファに腰を下ろして、ほっと一息。

その時、インターフォンが鳴った。

× ×

インターフォンのカメラに写った美鈴。

美鈴「ごめんサトシ君、尾けてきちゃった！ 部屋に入れてよ、お酒買ってきたから！」

サトシ「(複雑な表情で)……」

× ×

入ってきた美鈴が興味深そうに室内を見回している。

美鈴「あかりちゃんは？」

サトシ「遊びに行ったのかな……」

美鈴「(一室のドアを指して)こっこの部屋、見ていい？」

サトシ「どうぞ」

美鈴、ドアを開くと、そこは男物の洋服が壁にかけられた部屋。

美鈴「(興味津々で)ここがサトシ君の部屋かあ……そっちがあかりちゃんの部屋ね？ (別のドアを指す)」

サトシ「……うん」

ドアを開くと、そこには女物の洋服が壁一面に飾られた室内。

サトシ「僕、着替えるよ……(ドアを閉める)」

美鈴「どうぞどうぞ！ あたしは適当にやってるから(とリビングのソファに腰を下ろし、缶ビールを開けたりしている)」

室内に飾られた写真立てにあかりやサトシ単独の写真が飾られているが、ツーショット写真はない。

一室のドアが開き、素足が現れる。

美鈴「(振り向いて)ねえサトシ君、あかりちゃんって今晚、デート？」

出てきたのは、ホットパンツ姿のあかり。

美鈴「(驚いて)あかりちゃん、いつの間に帰ってきたの？ あれ、サトシ君は……(立って室内を覗き込む)」

誰もいない部屋。

美鈴「(固まって)サトシ君がいない……どうして……」

あかり「(だしぬけに美鈴にキスして)……」

固まる美鈴。

あかり「(唇を離して)……」

美鈴「サトシ君と同じキスの感触……！」

あかり「ごめんね美鈴さん、僕がサトシなんだよ……僕ね、昔からずっと女の子になるのが好きだったんだ」

美鈴「(虚脱して)あたしが好きになるのは、いつも妻子持ち。今度はオネエかよ」

あかり「僕は男も女も好き。だから正確にはバイ」

美鈴「オネエでもバイでも、どっちだっていい！」

あかり「僕ね、美鈴さんと同じ夢を持ってるんだ。美鈴さん、『ママになりたい』と言ったでしょ？ 僕も同じなんだよ……だけど僕は子どもを産めない。だから僕の代わりに、僕の子どもを産んでくれない？」

美鈴「(口あんぐりで)……はあ？」

サトシ「(ニッコリ微笑んで)二人でママになろうよ」

美鈴「ちょ、ちょっと待って！」

8 「スナック香澄」店内(別の日の夜)

お水姿の美鈴とあかり(美鈴はソップを向いているが、あかりは自然体)。

そんな二人を心配そうに見つめるアヤカと香澄ママ。

香澄「二人ともどうしたの？ ケンカでもしたの？」

アヤカのM「この二人に一体何があったのでしょうか！？」